

診療体制は前年度と同様、2人体制で診療を行った。2015年度の外科への直接の新入院患者数は403例で、感染症5例、悪性新生物122例、呼吸器疾患18例、消化器疾患105例、その他153例であった。

手術件数は前年度の112例に対し、今年度は79例で対前年度 70.5%にとどまった。全麻・腰麻手術は、前年度83例から65例となり、対前年度 78.3%だった。

悪性新生物の手術数は前年度26例から18例となった。内訳は胃癌が前年度の6例から4例に減少した。うち2例には腹腔鏡下胃切除術を施行した。大腸癌は前年14例が7例となり、うち直腸癌は1例であった。肝胆膵領域では胆のう癌を1例行った。今年度の乳癌は6例で、温存手術は2例施行し、熊本市、天草の病院と連携し術後放射線照射まで行っている。

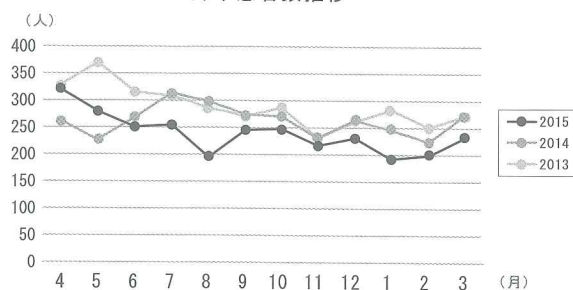
胆石・胆嚢炎では計17例に手術を行い、すべて腹腔鏡下胆嚢的手術で実施し、鏡視下手術の遂行率は100%であった。急性虫垂炎は5例で、うち2例に鏡視下手術を行った。単径・大腿ヘルニアは21例であった。

鏡視下手術の総数は19例で全手術症例の24%を占めた。

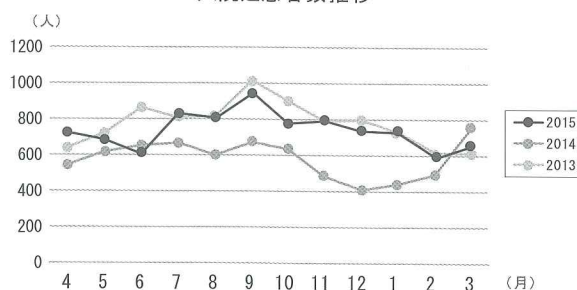
悪性疾患に対する化学療法は進行・再発癌、悪性疾患術後に延べ245回施行した。

高齢者の外科手術の増加で、疾患をしっかり治すことと同時に手術後も生活の質を落とさず在宅生活を続けられるように心がけている。

外来患者数推移



入院延患者数推移



OP件数推移年度比較

